





世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 16 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

[I] 次の文章(A～E)をよく読み、空欄(1～10)に最も適切な語句を、解答欄に記入しなさい。

A 前16世紀になると、オリエント文明やクレタ文明の影響を受けたギリシア人の一派が、ミケーネ文明を築いた。ミケーネ文明は、小王国に分立し互いに抗争を続ける一方、専制権力を握る王が、官僚組織を基礎に地方の村落から農産物、家畜、手工業製品を納めさせた。こうした制度の実態は、イギリス人 によるギリシア線文字B文書の解読によって明らかとなった。また、ミケーネ文明の諸王国は小アジア西北にまで進出しトロイアを滅ぼしたといわれている。トロイアとの戦いで活躍したとされる英雄オデュッセウスの冒険は、詩人 の叙事詩にうたわれている。

B ミケーネ文明滅亡以降、前12世紀から前8世紀までの400年間、ギリシアは とよばれ、歴史的に不明な点が多い。しかしこの間に鉄器文明への移行を果たし、ギリシア語アルファベットが考案されるなど、新しい社会の誕生が準備されていた。前8世紀に入り、 に別れを告げると、各地の有力者の指導のもとで多くのポリスが建設された。各ポリスは、それぞれ独立性を有しており、統一国家にまとめ上げられることはなかったが、共通の言語、 の神託、オリンピアの祭典を通して互いに文化的な共通意識をもっていた。

C ペルシアの支配に対する植民市の反乱をきっかけに、ペルシア戦争が勃発した。テμισトクレスの率いるギリシア艦隊は、サラミスの海戦でペルシア艦隊を全滅させたが、その際に当時の軍船である の漕ぎ手として活躍した無産市民の政治的地位が高まった。戦後アテネの民主政治に貢献したペリクレスは、民会をポリスの最高決定機関とし、将軍以外の主要な役職をくじで公平に選ぶ制度を整えるなどして、財産の多寡にかかわらず市民が積極的に政治に参加することを求めた。また彫刻家であった らの協力を得て、パルテノン神殿の再建にも取り組んだ。

D ゲルマン民族の侵入以降、ギリシア文化の遺産はビザンツ帝国に継承されたが、そのビザンツ帝国も、1453年にオスマン帝国によって滅ぼされた。19世紀になると、フランス革命の影響を受け、ギリシア独立の機運が高まったが、オスマン帝国は、こうした独立の動きを徹底的に弾圧した。しかし、ギリシア文化を西洋文化の源泉とみるイギリスの詩人 の活躍や、フランスの画家ドラクロアの作品によって、ギリシア独立支持の国際世論が高まった。その後、ギリシアの独立は1829年の 条約においてロシアとオスマン帝国の間で承認され、さらに1830年に国際的な承認を勝ち取った。

E 第一次世界大戦で戦勝国となったギリシアは、エーゲ海沿岸の に侵入したが、ケマル＝パシャに率いられたトルコのアンカラ政府によって撃退され、ローザンヌ条約により、同地を返還することになった。第二次世界大戦中、ギリシアはドイツに占領されるものの、共産主義や民族主義のバルチザン運動がさかんであった。連合国による解放後も政治は安定せず、共産主義ゲリラとの内戦状態が続いた。そのようななか、共産主義勢力の拡大を恐れたアメリカ大統領 は、1947年にギリシアとトルコに対する支援を表明した。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、空欄(1～10)に最も適切な語句を、解答欄に記入しなさい。

科学技術の発達は、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。19世紀の後半から科学主義の考え方が広がり、生物学ではダーウィンが進化論を提唱して大きな衝撃を与えた。軍事技術では [1] がダイナマイトを発明し、第一次世界大戦では戦車、航空機などの新兵器が使われた。1913年に [2] は「組み立てライン方式」を提案し、それによって自動車の大量生産が可能になると、1920年代にはアメリカで自動車産業が飛躍的に発達した。大衆娯楽として映画も発達し、チャップリンなどが活躍した。プロスポーツやジャズ音楽なども流行し、アメリカ的生活様式が世界に広まっていった。

[3] はラジウムを発見し、20世紀初めにはアインシュタインが相対性理論を提唱して物理学を革新した。だがこれらの科学的成果は、人類に恩恵だけではなく大きな災厄をもたらした。第二次世界大戦で日本に対して使用された原子爆弾は、近代科学技術の負の成果であった。第二次世界大戦後にはさらに強力な水素爆弾も開発され、人類は核時代に突入した。1957年には初めて人工衛星が打ち上げられたが、この技術は核ミサイルに利用された。宇宙開発も進展し、1969年アメリカの宇宙船 [4] によって人類は初めて月面に降り立った。

19世紀以降、医学も急速に進歩し、パストゥールや [5] によって細菌学が始められた。20世紀に入るとX線が治療に利用されるようになり、また1929年には初めて [6] が抽出され、抗生物質が活用されるようになった。遺伝学では、1953年にDNAの二重らせん構造が解明され、やがて遺伝子組み換え技術も開発された。動物に関しては、すでにクローン技術によって羊や牛が生まれており、人間や生物に関する倫理的な問題が問われるようになっている。

第二次世界大戦後、アメリカ合衆国、西欧諸国、日本などの先進国では豊かな社会が実現されたが、これは石油など天然資源の大量消費によって支えられたものであった。また水俣病などの公害問題は深刻なものとなった。地球的規模で環

境汚染や生態系破壊が起こっており、現代文明は大きな危機に直面している。1986年にウクライナでおこった 原発の事故は、科学技術の持つ危険性を示していた。またアマゾン川流域では森林破壊が急速に進んでいる。この森林破壊と砂漠化の進行は、環境に大きな影響を与えていると考えられ、地球の将来に大きな不安を投げかけている。

人文・社会科学も19世紀以降、ヨーロッパで発達し、 は厳密な史料調査に基づく近代史学の確立に貢献し、マルクスはそれまでの経済学とは異なる視点から『資本論』を書き、その後の社会主義の発展に大きな影響を与えた。20世紀に入ると が精神分析学を打ち立て、ヴェーバーは社会学を発展させた。だが今日、このような近代科学は大きな転換点を迎えており、これまでの価値観の見直しが進んでいる。こうした中で男女の性別による差別を批判する 運動が展開されている。コンピューターやインターネットの普及により、私たちの生活の在り方は、職場や家庭で大きく変化し、IT革命ともいわれた。

〔Ⅲ〕 次の文章(A～E)をよく読み、下線部(1)～(10)に答えなさい。

A インド亜大陸では前 2300 年ころまでに、インダス川流域に都市文明が成立した。前 1500 年ころ、インド＝ヨーロッパ語系の遊牧民であるアーリア人が、インド西北部に侵入して部族社会を作った。さらに前 1000 年ころにはガンジス川流域の平野へと移動し、そこで鉄器を用いた農法により農業生産力を飛躍的に伸ばした。また彼らは、先住民とまじわり定住農耕社会を形成する過程で、先住民を皮膚の色の違いによって区別し、ヴァルナ制度と呼ばれる身分的上下観念を生み出した。

問 1 下線部(1)に関する記述として誤っているものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ろくろで作られた彩文土器を用いた。
- ② インダス文字が刻まれた印章が使用された。
- ③ 都市の外部には、巨大な宮殿や陵墓が作られた。
- ④ 代表的な遺跡のひとつに、ハラッパーがある。

問 2 下線部(2)のアーリア人が侵入し定住したインド西北部にある地方として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① シンド地方
- ② ガンダーラ地方
- ③ パンジャーブ地方
- ④ イリ地方

問 3 下線部(3)に関する記述として誤っているものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 各ヴァルナが遵守すべき生活規範は、『マヌ法典』の中で述べられている。
- ② ヴァルナとは、本来「縁起」を意味する語である。
- ③ このヴァルナ制度を枠組みとして、カースト制度が発達した。
- ④ パラモン・クシャトリヤ・ヴァイシャ・シュードラの4つの基本的身分がある。

B 前6世紀ころまでには、ガンジス川中・下流域に都市国家がいくつも形成されたが、この都市国家において武士階層のクシャトリヤや商業に従事するヴァイシャの支持を背景に、新しい宗教が生まれた。また、バラモン教の内部からも改革運動が生じ、⁽⁴⁾それまでの祭式至上主義から転換して内面の思索を重視する哲学が生み出されたのもこのころである。

問 4 下線部(4)について、仏教成立とほぼ同時期にインドで起こった宗教として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ゾロアスター教 ② マニ教 ③ シク教 ④ ジャイナ教

C 前3世紀には、マウリヤ朝のアショーカ王がカリング国などを倒し、南端をのぞくインドの最初の統一を達成した。⁽⁵⁾だがそれ以降、アショーカ王は、武力による征服活動を放棄して仏教に帰依し、法と社会道徳により国の統一維持をはかった。このような統治理念にもとづいて、王は、全国に詔勅を刻んだ磨崖碑や石柱碑を建立させるとともに、スリランカ(セイロン島)などへの布教活動⁽⁶⁾も行った。

問5 下線部(5)に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① チャンドラグプタ1世が建国した。
- ② 第4回目の仏教結集を行った。
- ③ プルシャプラ(現ペンジャール)に都を置いた。
- ④ アレクサンドロス大王の西北インド侵入による混乱状態を平定して成立した。

問6 下線部(6)に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① この時期の南インドではシュリーヴィジャヤ朝が栄え、南海貿易を積極的に進めた。
- ② 主として日本に伝わったのは、この島に伝播した南伝仏教である。
- ③ 紀元前2世紀～4世紀にかけて、パガン朝により支配された。
- ④ 国際性に富んだ港市国家として栄えた。

D 1世紀半ばころに、インド西北部を中心にイラン系のクシャーナ朝が成立した。この王朝が最も栄えたのは、2世紀半ばのカニシカ王のときである。このころ、クシャーナ朝の保護をうけた大乘仏教は勢力を強め、各地に菩薩信仰が広がりギリシア式仏教美術を開花させた。⁽⁷⁾大乘仏教はその後、シルクロード(絹の道)経由で中国から朝鮮や日本へと伝えられていった。

問 7 下線部(7)に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ナーガールジュナにより教理の基礎が確立された。
- ② 中心となる思想は、梵我一如である。
- ③ シヴァ神やヴィシュヌ神などが信仰された。
- ④ 個人の解脱をめざして修行することを重視する。

E 4世紀には、北インド全域を支配するグプタ朝がおこった。この時代は、バラモン教とインド各地の民間信仰が混合してできたヒンドゥー教が社会に定着するとともに、文学、天文学、文法学や数学なども発達し、インド古典文化の黄金時代と呼ばれている。⁽⁹⁾また、仏教との関連では、仏教教義研究のための研究機関が建てられるとともに、純インド風美術が発達した。⁽¹⁰⁾しかし、6世紀半ばにグプタ朝は、滅亡する。その後、ガンジス川流域を中心にヴァルダナ朝がおこったが、その王の死後衰退し、それ以降の8世紀～13世紀ころまでは北インドではラージプート時代といわれる諸王国が分立、抗争する時代となった。

問 8 下線部(8)に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 突厥とササン朝に挟撃されて滅亡した。
- ② 『マヌ法典』がほぼ現在伝えられている形に編纂された。
- ③ 中央部は王国直轄領として統治され、さらにその周辺部でも中央集権的な統治体制がとられていた。
- ④ 同じ時期の南インドでは、サータヴァーハナ朝が栄えていた。

問 9 下線部(9)について、カーリダーサが著した作品を次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 『イリアス』
- ② 『シャクンタラー』
- ③ 『マハーバーラタ』
- ④ 『リグ=ヴェーダ』

問10 下線部(10)について、仏教教義研究のために、7世紀にインドを訪れた中国僧とその著書、ならびにその行路の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のなかから一つ選びその番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 玄奘—『大唐西域記』—陸路
- ② 義浄—『南海寄帰内法伝』—陸路
- ③ 玄奘—『大唐西域記』—海路
- ④ 義浄—『南海寄帰内法伝』—海路

〔IV〕 次の文章イ～ニをよく読み、下線部(1)～(10)に関する問1～10に答えなさい。

イ 明では万曆帝が即位すると、張居正が内閣大学士として全権を掌握し、抜本的な政治改革に取り組んだ。しかし、張居正と対立した顧憲成は下野して激しい政府批判を展開した。一方、これまで明の支配に属していた女真族は、ヌルハチに率いられ自立し、国号を金(後金)とした。さらに第2代のホンタイジ(太宗)は、1636年、皇帝に即位し国号を清と改めた。

問1 下線部(1)に関する選択肢A～Dのなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A 張居正の支持者は、彼が建設した東林書院にちなみ、東林派とよばれた。
- B 顧憲成は『四庫全書』を編纂し、政府への批判を展開した。
- C 東林派に批判された非東林派は、宦官と手を結んで勢力拡大をはかった。
- D 宣統帝のもとで勢力を伸ばした魏忠賢は、東林派に厳しい弾圧を加えた。

問2 下線部(2)のヌルハチまたはホンタイジがおこなった事柄に関する選択肢

- A～Dのなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。
- A 北京郊外に円明園を造らせた。
- B 軍事行政上の最高機関として、軍機処を設置した。
- C 内モンゴルのチャハル部を従えた。
- D 典礼問題をきっかけに、キリスト教の布教を全面禁止した。

ハ 清はロシアのピョートル1世との間にネルチンスク条約を締結し、清露の国境を画定した。またオイラト系部族のジュンガルを破ってモンゴルへの影響力を強める一方、チベット、東トルキスタンにも勢力を拡大した。清は、その勢力範囲を3つの段階に分けて統治した。中国内地、東北地方、台湾を直轄地としたのに対し、モンゴル、青海、チベット、新疆を藩部として理藩院に統治させた。直轄地や藩部以外の朝鮮、ベトナム、タイ、ミャンマーを属国として朝貢国の待遇を与えた。

問 6 下線部(6)が締結された時期とほぼ同時代の出来事について、選択肢A～

Dのなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A マテオ＝リッチがマカオに到着した。
- B プラッシーの戦いが勃発した。
- C ファルツ継承戦争が始まった。
- D ルソーが『社会契約論』を執筆した。

問 7 下線部(7)に関連する記述について、選択肢A～Dのなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A 紅帽派チベット仏教の指導者ダライ＝ラマが支配者となった。
- B ラーマ1世がラタナコーシン(チャクリ)朝をたてた。
- C フビライがパスパを保護したことから、チベット仏教が元で栄えた。
- D ヌルハチの時代、ソンツェン＝ガンポがチベット文字を作成した。

問 8 下線部(8)に関する記述について、選択肢A～Dのなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A 清の文化的支配に対する対抗意識から、儒教は衰退した。
- B 明の滅亡より前に、清の攻撃を受け朝貢関係に入った。
- C 商業の発展により、両班とよばれた新興の商人層が勢力を拡大した。
- D 己酉約条を締結し、琉球の尚氏を通じて日本との関係を継続した。

二 清朝は、中国統治にあたって中国の伝統文化を重んじる方針をとった。また統治制度の面でも、旧明軍の漢人部隊を再編成した緑營を正規軍とし、八旗の不足を補った。しかしその一方で、文字の獄に見られるように反満、反清的な書物には厳しい弾圧を加えると同時に、清に対する服従のしるしとして、成人した漢人男性に辮髪を強要した。

問 9 下線部(9)に関する記述について、選択肢 A～D のなかから最も適切なものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A 文献学的批判や言語学的分析を重視する公羊学派がさかんとなった。
- B 錢大昕が、考証学の影響のもとで史学研究の方法を確立した。
- C 考証学は、のちに变法自強を主張する康有為に大きな影響を与えた。
- D 顧炎武は、清に仕え考証学における経世実用の主張を展開した。

問10 下線部(10)に関する選択肢 A～D のなかから、適切でないものを一つ選び解答欄にマークしなさい。

- A 八旗は北方民族の生活様式から発達したもので、漢軍の八旗はない。
- B はじめ女真族を統率するものであったが、その後蒙古八旗も生まれた。
- C 清朝末期の太平天国の乱の平定の際には、十分に機能しなかった。
- D 八旗に属する人は旗人とよばれ、旗地が与えられた。

[V] 次の文章(A～J)をよく読み、下線部(1)～(4)のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 道路網を充実させて東西交通を発達させた元で、駅伝制が完備された。この交通路によってキリスト教の中国への伝来も行われた。中国へはすでに唐の時代に、キリストの神性と人性を峻別して異端とされたネストリウス派が景教と呼ばれて伝わっていた。⁽¹⁾1294年に首都長安に到着したモンテ=コルヴィノはローマ教皇によって派遣され、カトリックの最初の布教者となった。フビライに仕えたマルコ=ポーロも陸路を使って長安に達している。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

B 国土回復運動でスペインに後れを取ったポルトガルでは、王子エンリケがインド航路の開発を奨励し、それにこたえてヴァスコ=ダ=ガマが、1498年インドのカリカットに到着した。これによってアジア貿易の中心は、地中海からインド航路へと移った。⁽¹⁾ゴアを植民地としてアジア貿易を支配したポルトガルのリスボンが、世界貿易の中心地となった。しかし国力を超えて拡大したため17世紀になるとポルトガルは次第に衰えていった。その後マゼランの世界一周を後援したスペイン、さらには毛織物工業で栄えたアントウェルペンの荒廃を機に、世界金融の中心となったアムステルダムへと世界貿易の中心地は移っていった。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

C 産業革命をいち早く実現したイギリスで、1825年にストックトン・ダーリントン間の鉄道が敷設され、スティーブンソンが開発した蒸気機関車が、その上を走った。⁽¹⁾産業革命期の輸送を支えた運河に替わって、以後鉄道が世界の交通を担った。⁽²⁾科学的社会主義者であるロバート=オーウェンは、『イギリスにおける労働者階級の状態』で、劣悪な生活環境におかれた労働者階級の生活を描いたが、労働組合の結成や工場法制定によって次第にその状況は改善された。⁽³⁾1851年の万国博覧会には、鉄道を利用して見物客が押し寄せ、人々のレジャー活動も促進された。⁽⁴⁾

D 南北戦争後、保護貿易体制のもとで工業化を進めたアメリカで、1869年に大陸横断鉄道が完成した。この鉄道は資本主義発展のための市場の拡大をもたらすと共に、当時盛んになった西部開拓を可能とするものでもあった。しかし鉄道などによる独占の形成は中西部と南部の農民達の反発を招き、彼らを中心として第3政党となる人民党が生まれた。だがロックフェラーによるトラストの形成などが相次ぎ、それに対し政府が対抗措置をとらなかつたため、独占化を阻止することはできなかつた。

E フランス人レセップスによって進められたスエズ運河の建設は、地中海と紅海を結び、ヨーロッパ・アジア間の航海日数を大幅に削減した。またそれまで、一部を除いてほとんど知られることのなかつたアフリカへのヨーロッパの関心を、一気に高めた。ベルギー王がスタンリーにコンゴを探検させたのもこのころである。イギリスの首相ディズレーリはエジプトの財政難に乗じてエジプトの持つ運河株を買収、イギリスによるエジプト支配のきっかけとなった。エジプトが運河を国有化するのは20世紀初頭になつてのことである。

F もともと綿製品の輸出国であつたインドは、19世紀半ばには、産業革命を遂行したイギリス綿製品の販売市場となつた。その市場の開拓のために、イギリス資本によってインドに鉄道が積極的に敷設された。この鉄道はイギリスによるインド支配を強化するものともなつた。このころ自由貿易の旗印のもとでインドを支配していた東インド会社は、本国の産業資本の成長と共に次第にその特権を奪われ、ムガル皇帝を擁立したシパーヒーの反乱を機に、1858年には解散に追い込まれた。1877年、ヴィクトリア女王が皇帝となつて、インド帝国が成立した。

G 工業化が遅れたロシアは、国内市場の開拓と東アジア進出のため、フランス⁽¹⁾資本の援助によってシベリア鉄道の建設に着手した。1895年には、遼東半島⁽²⁾を日本から清に返還させた三国干渉の代償として東清鉄道の敷設権を得、シベリア鉄道⁽³⁾は不凍港であるウラジヴォストークにつながった。これによりロシアは極東経営の拠点をもつことになった。東清鉄道の南満州支線は、後にポーツマス条約⁽⁴⁾によって、日本に譲渡された。

H アフリカ進出に遅れをとったドイツは、ヴィルヘルム 2 世⁽¹⁾が開催したベルリン＝コンゴ会議を機に、積極的なアフリカ政策を開始した。1899年にバグダード鉄道の敷設権を獲得し、ベルリン、ビザンティウム、バグダード⁽²⁾を結ぶ3B政策に乗り出した。これはイギリスの、ケープタウン、カイロ、カルカッタをむすぶ3C政策と対抗するものであり、両国の対立が激化した。イギリスはフランス、ロシア⁽³⁾と次々に協商関係を結び、一方ドイツはオーストリア⁽⁴⁾との同盟関係⁽³⁾を強めていった。

I ドミニカ共和国の1州であったパナマは、パナマ運河の建設権を求めたアメリカ⁽¹⁾の要求を拒絶したドミニカから、1903年にアメリカの援助を得て独立した。すでに孤立主義的姿勢⁽¹⁾から転換していたアメリカは、運河の工事権・租借権⁽²⁾を得て、1914年に太平洋と大西洋を結ぶパナマ運河を開通させた。パナマ独立当時のアメリカは対内的には革新主義、対外的には「棍棒外交」⁽³⁾のセオドア＝ローズヴェルト⁽⁴⁾のもとにあり、この運河を手がかりとして、パナマをはじめとする中南米諸国をその強力な支配下においた。

J 義和団事件以後の清朝で、国政改革の必要性が認識されるようになった。革命結社である興中会を指導していた孫文は、1905年に中国同盟会を組織した。同盟会は民族・民権・民生の三民主義を掲げて、運動を行った。政府の側でも科挙の廃止⁽¹⁾や憲法大綱の発表、国会開設の公約など、近代化へ向けての努力⁽²⁾を行った。1911年に成立したおもに華僑を後ろ盾に持つ内閣⁽³⁾は、外国からの借款の担保として、幹線鉄道を国有化することを発表した。これには民族資本家⁽⁴⁾などによる反対運動が沸き起こり、これが辛亥革命のきっかけとなった。